

お客さまへのメッセージ

理事 事業部長
野田 清文 (第2SI&S事業部)

過去から引継ぎ、未来へ！

今年の6月、ユネスコの世界文化遺産に富士山が登録され、日本中で喜びの声が伝えられましたが、この9月に今度は2015年の世界文化遺産登録を目指し「明治日本の産業革命遺産（九州・山口関連地域）」を推薦すると政府の発表がありました。



明治以降、火を燃やし続けた高炉
(官営八幡製鐵所東田第一高炉史跡)

今回の発表となった「産業革命遺産」は、九州を中心に計8県1市28件の資産で構成されており、幕末から明治期にヨーロッパの先進技術を取り入れ、日本の重工業（製鉄、造船、石炭産業）が急速な産業化を達成したことを表しています。僅か半世紀で、国家の質を変革し、産業国家の礎を築いたことは、技術・産業・社会経済に関わる世界の歴史的発展段階において、極めて価値の高い特筆すべき類稀な事象であることが改めて分かりました。

推薦された資産の中で、長崎造船所は幕末オランダ海軍機関将校の指導で建設した洋式船用機械修理工場を所有する“長崎製鉄所”が前身です。以来、造船業発展の国家目標の下、明治政府、三菱と主を変えながら、産業形成期には日本最大の民間造船所として発展しました。

一方、官営八幡製鐵所からスタートする八幡製鐵所は産業素材の拠点として、我が国近代化の最終段階である重工業化を達成した記念すべき存在であり、日本に、世界の発展に、大きく貢献したことは、北九州市民には良く知られたところです。

今回の発表を受け、昨年亡くなった私の父が以前、“昭和の鉄鋼マン”としてこの官営時代の精神が残る職場に居たことを、誇らしげに語っていた姿を思い出し、その父の愛した製鐵所の歴史的、技術的、文化的価値の素晴らしさを再認識するきっかけとなりました。

J Bグループの弊社も、1967年に八幡製鐵所のグループの一員からスタートしました。この素晴らしい北九州の地で事業を展開できていることに感謝しつつ、弊社の得意技のひとつである“製造業向けのソリューション”をより充実させ、ITの可能性を信じ、地場企業として地域貢献できるよう頑張っていきたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

エコテクノ2013 ご来場ありがとうございました！

今年も10月16日～18日、エコテクノ2013【地球環境・新エネルギー技術展&セミナー】に出展いたしました。今年は同時開催の展示会や国際会議が集中したことなどもあり、例年にも増して大盛況で、3日間で29,651人のお客さまが来場されました。

ソルネットブースでは

- ◆産業廃棄物処理企業様向け統合管理システム
「グリーンプラネットパック」
 - ◆ITインフラ技術によるエコサービス
「グリーンインフラソリューション」
 - ◆港湾地域低炭素化推進事業のご紹介
- また、グループ企業の「iGUAZU」と共催で
- ◆3Dプリンター を展示いたしました。



ソルネットブースの様子



未来のお客さまたち

特に、話題の3Dプリンターの実演展示とあって多くのお客さまが押し寄せる人気ブースになりました。また、「小学生環境学習プログラム」にも参加し3Dプリンターの仕組みや用途の説明に熱心に耳を傾けてくれる小学生の姿を見て、将来の無限の可能性を感じて頼もしく思いました。

特設ステージでは今年もセミナーを実施しました。

廃棄物を資源と捉え、資源循環を一層促進させる為に、

動脈サプライチェーンと静脈サプライチェーンをITでつなぐ産業廃棄物排出企業様向けシステム

「グリーンプラネットパック + (プラス)」を
お披露目しました。

最後になりましたが、ブース・セミナーにご来場いただきました皆さま、本当にありがとうございました。今後も、ITソリューションにて環境負荷低減に貢献するために、より一層の努力をし、皆さまにより良い製品をお届けできるように頑張ります！



「グリーンプラネットパック+」をご紹介します

【お客さま紹介】

「世界の環境首都・北九州」の実現をリードする

公益財団法人北九州国際技術協力協会（通称：KITA） カイト

■ KITAさまについて

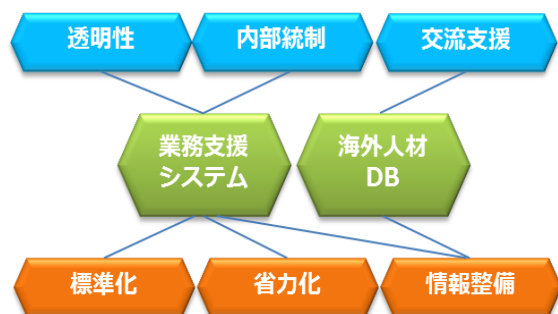
北九州で培われた産業技術や環境技術を開発途上国に広く伝え、持続可能な発展を支援することで、環境と産業の調和を目指す公益財団法人です。

昭和55年の設立以来、累計7000名を超える海外研修員の受け入れや技術者派遣など、JICA(*1)をはじめとする団体・企業と連携し、広範な国際技術協力、調査を展開されています。また技術だけでなく、伝統や文化なども含めた相互理解を通じて信頼関係を築くなど、幅広い交流を実現されています。

八幡東区平野から世界へ！



■ 公益財団法人への移行対応と、事業展開を支える情報基盤づくり



昨年4月の公益法人化を起点に、情報装備拡充と透明性の確保を目的として、KITAさまではまず「将来の土台作り」に取り組まれました。業務手順の標準化と並行してインフラ拡充を行い、メイン事業である研修事業の強化対策として、研修事業に関するデータの一元管理、研修日程の可視化と共有化を実現する「業務支援システム」

を構築しました。さらに「海外人材データベース」を活用したコミュニケーションにより、研修員を中心とした北九州市、JICA、IGES(*2)を含めた国際ネットワークを実現し、国際協力の発展・拡大に取り組まれています。

(KITAさま HPより抜粋)

■ 担当から

KITAさまは、今回整備した情報基盤をもとに、「海外ニーズ調査発掘と海外ネットワーク構築」という新事業への展開や、メイン事業である「研修事業・技術協力事業」の事業力強化・充実などを精力的に行われています。

北九州市の目指す「世界の環境首都」を実現するために不可欠な、いわば「牽引役」であるKITAさまを、ITでより力強くご支援していくことができるよう、弊社もさらに研鑽を積んで参りたいと思います。

注釈) (*1)独立行政法人国際協力機構 (*2)公益財団法人地球環境戦略研究機関
参考) KITAさま ホームページ < <http://www.kita.or.jp> >

2014年度新卒採用・内定式

10月1日。2014年度新卒採用者の内定式を実施しました。

3名の内定者は、既に、8月の社内イベントである“山&川BBQ”にも参加しており、会社の雰囲気には十分溶け込んでいたはずですが、やはり内定式となると、緊張するものなのか、内定証書の授与の際、多少ぎこちない所作の感がありました。



4月にお会いしましょう～

山本さん（代表取締役社長）より、「悔いのない最後の学生生活を送るように・・・」また、「今後、イベントへの参加依頼を致します。その中で社員と打ち解け、来年4月には、不安感無く入社して来て下さい。」と祝福の言葉がありました。



内定おめでとう！！

内定式後は役員と昼食会を実施し、やっと、安堵したという感じだったのでしょうか、...

しかしながら、それもつかの間、新人成果発表会に参加するや否や、“1年後には自分達が、発表する！？”と再度張り詰めた感を味わい、内定者にはさぞや、“なが～い1日だった”ことでしょう。

（事業管理）

2013年度新入社員研修成果発表会 2013/10/1

毎年恒例となりました新入社員による「研修成果報告会」が実施されました。今年度の事例研究テーマは、タブレットユーザーのユーザービリティを意識し、HTML5を採用した動画再生・動画投稿を可能とする「ソルネットリクルートサイト創設」です。新技術を利用したテーマに先輩社員も興味津々。発表会前に行ったブースデモ



どのブースも大盛況！

では、実際に操作して頂きながら表現力豊かな画面や操作性をアピールしていました。また、成果発表会では、学んだこと感じたこと、そしてこれからの決意を成長した姿とともに力強く発表しました。



笑いあり涙あり...
個性あふれる素晴らしい発表でした

当社の社内新人研修は、入社2年目の社員がブラザーとして指導します。レベルの高い成果発表に、新入社員だけでなく、ブラザーの成長も十分に感じることができました。新人の皆さんも、来年はブラザーとして後輩を導く立場に。“達成感と責任感”を感じた1日となったことでしょう。

（事業管理 久保田 知子）

ISO9001認証継続 10年表彰

10月1日、弊社の品質マネジメントシステム(ISO9001)の審査会社であるJICQA（日本検査キューエイ株式会社）さまより、10年に亘り認証の継続とシステム維持・向上に努めてきたことについて表彰されました。この表彰制度は、JICQAさまが昨年より導入された制度です。

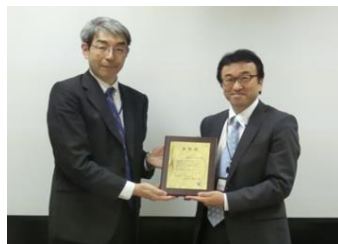
弊社では、今年7月にサーベイランス審査も無事終え、認証継続を引き続き続けております。

当日は、品質管理責任者である松岡さん（取締役上級執行役員）が授与を受けました。

弊社のISOは当初より全組織を認証対象とし、“全社一丸となって取組み、品質のみならず経営品質面も高める。”ということを目的に様々なシステム維持・向上に努めてまいりました。

この10年表彰は、品質マネジメントのみならず、社員一人一人の改善活動を評価されたものであり、今後もこの賞に恥じないようにシステム維持・向上を図っていくことを改めて考えさせられる良い機会となりました。

（事業管理）



これからも
品質向上に努めてまいります



2013年度下期キックオフミーティング

10月23日、2013年度下期キックオフミーティングを“黒崎 ひびしんホール”にて開催しました。これまで下期キックオフは、役職者のみを対象としていましたが、4年ぶりに全社員を対象（143名が出席）としました。今回のキックオフは山本さんのメッセージに続き、各部長のメッセージという形をとりました。社員により近い部長さんから直接、社員へ語りかけることで、下期目標を確実に達成しよう！という狙いです。初めてキックオフで発表する部長もありおり少し緊張した様子でしたが、“掴み”も挟みながら、社員へ興味深くわかりやすく伝えるように語りかけていました。

最後に、山田さん（J B C Cホールディングス 代表取締役社長）からのメッセージ後、松岡さんより社員へ向け、3つの連呼（明るさの追求、全社一丸、目標達成）にて一体感を



全社一丸 頑張るぞー！

感じた中、終了しました。当日は、黒崎地区にて市政50周年記念行事“がんばる黒崎 はしご酒大会”が開催されており、その後は各事業部、それぞれ下期ダッシュへの意気込みを高めるためさらには黒崎の「町の活性化」に一役買おうとお酒を囲んでの事業部単位キックオフも実施されたようです。

（事業管理）

つながる。タスキに想いを込めて

11月2日、八幡東区で開催された“まつり起業祭八幡2013”の主要イベントの一つ

「第9回 八幡東田ウルトラ25時間駅伝大会」に今年も参加しました。

“TEAM SOLNET”は総勢180名(ご家族含む)の参加者で、一周800m、25時間の戦いに挑みます。まずはスタート走者社長の山本さんが、自慢のシューズで軽やかに3周。その後、営業部門から始まり、社員から社員、部門から部門へと続きます。



右から二人目が山本さん
メキシコ五輪銀メダリストの
君原さんの隣にスタンバイ!



コースは緩やかなアップダウンがあり、普段運動していないと息切れしてつらいのですが、沿道のそこかしこで応援してくれるチームメイトに元気をもらい、タスキを次につなぐことができました。今年入社の新人や内定者の、若く力強い走りに助けてもらいながら日中をしのぎ、夜間～早朝にかけては、普段から走り慣れた

精鋭メンバーが周回を重ねます。気温もぐっと下がり体力が奪われますが、代わる代わる暖を取りながら、黙々と走り続けます。

そして翌日の正午、早朝からの雨が残るなか、参加者全員の思いがこもったタスキと共に山本さんのゴール!!

一本のタスキをつなぎ続けるこの駅伝ほど、チームの結束力を感じるものはない、と思いました。



同日開催の「スポーツGOMI拾い大会」
結果は4位。スゴイ!!
(上別府さんと久富さん夫婦が参加)

トピックス 100km完歩への誓い

爽やかな秋晴れの10月12日。第15回行橋～別府100キロウォークが開催されました。年々人気を増すこのイベントは今年抽選方式になりましたが、1.5倍の難関を突破し、見事当選した社員17名と家族2名、お客さま3名を含めた総勢22名で挑戦しました。

昨年は無念のリタイヤをしたメンバーも多かったのですが、今回はなんと完歩者18名(社員完歩率88%)と大健闘! 参加者同士でのノウハウの共有や、具体的なアドバイスを参考に周到な準備をしたことが勝因です。

ゴール地点では、サポーター社員がおもてなしの準備を整えて、疲れきった参加者を温かく迎えました。

やり遂げたみんなで記念の一枚!!



充実した学習環境を提供します！

こんにちは！ 文教ソリューショングループの渡邊です。

私たちは“お客さまとの関係の強化”に向けて4月から体制を新たにスタートしたグループで、北九州市立大学情報総合センターさまの業務運用支援をしています。学生をはじめ教職員の皆さまへのサービスの充実・向上を目指し、ヘルプデスクから成績管理、サーバーや情報処理教室のパソコン導入・管理まで幅広くお客さま先に常駐してご支援をさせて頂いています。ヘルプデスクでは、パソコン利用に関することで知りたい、わからないことがあれば「いつでも、お気軽にお越しください。」



お客さまが、これを目印にヘルプデスクへ相談に来て下さいます

声かけから始めています！！

また、オンサイト運用サービスで長年培った豊富な業務知識・経験を元に、人材育成、学力向上、就職決定率UPや広報の充実などの課題を解決するために、お客さまと連携しながら、充実した学習環境の提供に努めています。

今後も、お客さまのご期待にお応えするため、より良いコミュニケーション、サービスを提供し、グループ一丸となって、頑張っまいます。

(文教ソリューショングループ 渡邊 浩実)



左から 渡邊、原、畑添、松本

メンバー紹介

①業務で心にかけていること ②プチ自慢

渡邊 浩実 財務会計システム、人給システム担当

- ①良きパートナーとして、「お客さまのお役に立つ」を常に心にかけています。ずっと笑顔でお付き合いができるような関係を目指して頑張ります。
- ②小説を年間50冊読んでいます。



松本 直彦 基盤系管理、ヘルプデスク担当

- ①常に、「お客さまの立場だったらどうなんだろう？」を心掛けて支援を行っています！
- ②天気の良い週末は、いつも自転車にのっています。



畑添 隆則 学校事務システム、時間割編成システム担当

- ①繁忙期に迅速かつ正確な処理が要求される入試システムでは、これまでの経験を生かした支援を心にかけています。
- ②体内年齢（タニタ体組成計）23歳をキープ。実年齢マイナス25歳が下限値らしい



原 功治 情報処理教室管理、サーバー管理

- ①どんな問題にも迅速に対応し、「お客さまが本当に求めている解決策」を、正確にくみ取れるように、コミュニケーションには気を使っています。
- ②家族は3人しか居ませんが、自宅には7台のPCやサーバーがあります。



お伝えしたい気持ち

先日自宅の片づけをしていて、以前弊社で発行していた社内報を見つけました。見ると、私の長女の写真が載っています。「三つ子の魂」というその欄は、三歳になる子どもを親が紹介するというもので、かわいい写真と親の愛情あふれるコメントがほほえましく、いつも読むのを楽しみにしていました。いざ自分の番が来ると、なかなかうまく書けず、何度も書き直したことを思い出します。

当時の社内報は、季節に合った風景写真を社員が撮影して表紙にしており、毎回その写真に感心したものです。社内イベントや親睦旅行の報告では、笑顔の写真と愉快的な記事が、チームの固い結束の見せ場でした。新年号では年男・年女の記事の一人ひとりの社員のコメントを、隅から隅まで読みました。

社内報があればどこにいても本社の空気に触れられ、社員同士の一体感を感じられたものです。

昨年新しくスタートした「そるねっとつうしん」は、お客さまに向けて“社員が自分自身で書く”ということを大事にしています。普段書きなれたビジネス文書と勝手が違い、記事を担当する社員はたいてい産みの苦しみを味わいます。

何をどう書くべきか、表現したいことが的確にお客さまに伝わるか、お客さまの視点と自分の視点を行きつ戻りつ、何度も何度も書き直します。こうして真っ白だった原稿は次第にお客さまと私達を結ぶ「つうしん」になっていきます。

おかげさまでもちまして、前回でようやく10号を迎えることができました。これまでに90名を超える社員が、この「つうしん」の記事作成に携わりました。メンバーは、産みの苦しみを通して、「お客さまにお伝えすることの喜び」を改めて実感しています。

以前の社内報がそうだったように、誌面に弊社の元気な雰囲気を少しでも多く詰め込んで、これからも末永く「つうしん」をお届けしていきたいと思っています。

(Y.N)



以前発行していた 社内報たち

編集後記

昨年7月にドキドキしながら発行した広報誌。「らしさ考」にも採り上げられていますが、編集する側としても、この先企画が続くのか、新鮮なテーマは？などと、緊張の汗をかくことが多々ありました。「毎号楽しみです」「楽しそうな会社ですね」と、社員をはじめ、たくさんのお客さまより頂く温かいお言葉やエールが、本当に、本当に大きな励みとなっています。今後もより内容を充実させ、元気と活気ある企業風土を皆さまにお伝えしてまいります。

(K.K)

